

創立144周年



学校だより
は南風の子

中種子町立
南界小学校

平成30年2月9日(金)

泣こよか、ひっ飛べ！！

校長吉留巧

1月下旬から2月上旬、南界小はインフルエンザが流行しやむなく臨時休校の措置をとりました。今後も流行は続くようです。皆様も十分お気を付けてください。

さて、今年、NHKの大河ドラマ「西郷どん」(せごどん)の放送が始まりました。鹿児島県内の視聴率は驚異的とか、鹿児島での西郷隆盛人気を改めて感じます。

原作の『西郷どん』(著者林真理子さん)では、これまでの重厚なイメージとは違う、人間味溢れる西郷像が書かれています。



1回目の放送では、大家族だった西郷家の様子や薩摩の少年たちが学んでいた郷中(ごじゅう)教育の様子など西郷隆盛の幼少期が放送されました。

郷中教育とは、今でいう町内会単位の自治組織で行われるの薩摩藩伝統の縦割り教育です。青少年を「稚児(ちご)」(6歳~14歳くらい)と「二才(にせ)」に分け、勉学・武芸・山坂達者(今でいう体育)などを通じて、先輩が後輩を指導していく教育のことです。

郷中教育では、「負けるな」「嘘をつくな」「弱いものをいじめるな」など、人として生きていくために必要なことを教えました。さらに、行動の指針として「泣こかい、飛ぼかい、泣こよかひっ飛べ」と困難に出会った時はあれこれ考えずとにかく行動しなさい、と教えます。西郷・大久保をはじめとする優れた多数の人材が、この郷中教育から育ち、明治維新の原動力となりました。

10月の校区の相撲練習で地域の先輩が後輩を指導していく様子を見て、「泣こよかひっ飛べ」の言葉が浮かびました。郷中教育の精神に近いなあと感じました。



ところで、「泣こかい、飛ぼかい、泣こよかひっ飛べ」と同じような意味をもった言葉が英語にもあります。「ファーストペンギン(First Penguin)」という言葉です。ファーストペンギンとは、群れで行動するペンギンの中で、魚を獲るために一番先に危険な海に飛び込む勇敢なペンギンのことを指します。

海にはペンギンの天敵といえるシャチやオットセイなどの肉食獣が、ペンギンが海に飛び込んでくるのを今か今かと待っています。しかし、ペンギンも魚を食べなければ生きていけません。危険を冒してまでも海に飛び込んで魚を捕まえないければなりません。

大抵のペンギンが命の危険を考えて尻込みし、なかなか飛び込んだりしない中、果敢に一番に危険地帯に飛び込んでいける勇気をもったペンギンを「ファーストペンギン」と呼びます。そのペンギンの習性が転じて、英語で「ファーストペンギン」というと「リスクを恐れずに勇気をもって新しいことにチャレンジする人」のことを言うそうです。

子どもたちはこれから人生のいろいろな場面で決断を迫られます。慎重に判断することも大事ですが、いつまでも迷ってばかりでは前へ進めません。

時に、私たちは子どもたちにファーストペンギンになるように促したり、あるいは「泣こよかひっ飛べ」と叱咤したりする場面がこの先あるかもしれません。そんな時、自信をもって背中を押せる大人でありたいと思います。



いよいよピョンチャンオリンピックが始まりました。15種目の競技で102個の金メダルを争うそうです。時差もありませんので、リアルタイムで応援できます。世界のアスリートの活躍を期待しましょう。でも、日本もメダルが期待される競技がたくさん。「日本、がんばれ！！」テレビの前で応援しましょう。